ASEAN 大使通信
第 20 回　ASEAN 関連外相会議の成果

2024 年（令和６年） 7 月 30 日

日 ASEAN 外相会議（2024 年 7 月 26 日、ASEAN 事務局提供）

本年もいよいよ後半です。７月下旬、ASEAN 年間行事の最初のヤマ場となる ASEAN 関連外相会議がビエンチャンで開催されました。私も現地に出張し、ASEAN を中心に主要国外相が一堂に会して、安全保障から経済・社会まで幅広い課題について対話と協力を進める地域枠組みの意義を改めて実感しました。

それに先立って、7 月初旬には東アジア首脳会議（EAS）大使級会合とリトリートがジャカルタ近郊のチアンジュールで開催され、ASEAN 主導の会合ならではの社交を交えての率直な議論が行われました。中旬には ASEAN-JICA フードバリューチェーン開発支援プロジェクト（AJFVC）の初の合同調整会議、ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）の ASEAN 事務総長との年次対話が相次いで開催され、ASEAN 事務局幹部とも個別協議も行って、日 ASEAN 協力の具体化を更に進めることができました。

今回の大使通信では、ASEAN 関連外相会議をはじめ一連の会議や行事についてご報告し、その成果や意義を皆さんと一緒に振り返ってみたいと思います。

EAS 大使級会合・リトリート前夜の夕食会
（2024 年７月２日、インドネシア外務省提供）

●EAS 大使級会合・リトリート

７月３日、ジャカルタ近郊の避暑地チアンジュールで、東アジア首脳会議（EAS）大使級会合・リトリート（オフサイトの非公式会合）が開催されました。EAS は、首脳主導の対話と協力のためのフォーラムとして 2005 年に ASEAN と日中韓豪印 NZ で発足し、2011 年に米ロも加わりました。制度化も進み、今では年央の外相会議、秋の首脳会議に加え、在ジャカルタの常駐代表・代表部大使による大使級会合を年３回開催しています。うち１回はジャカルタを離れてリトリートと併せて開催され、私は昨年のバンドンに続き２度目のリトリート参加でした。

会合前夜には、EAS 参加国大使や代表団員による夕食会が開催されました。EAS の場では、多くの複雑かつ困難な地域・国際問題が取り上げられ、各国の立場も様々です。そのような中で、率直な議論を通じて共通の利益や解決の方途を模索する雰囲気を、ASEAN が主導して創り上げています。

会合当日は、正式な大使級会合に加え、議長が大きな論点を提示して自由に議論を深めるリトリート・セッションがありました。ASEAN 主導の枠組みがこの地域に平和と安定、繁栄をもたらすために、日本としてどのような役割を果たしていくべきか、今後の具体的な取組について考えを深める良い機会となりました。

第１回 ASEAN-JICA フードバリューチェーン合同調整委員会（JCC）
（2024 年７月９日）

●ASEAN-JICA フードバリューチェーン開発支援プロジェクト（AJFVC）

７月には、ASEAN-JICA フードバリューチェーン開発支援プロジェクト（AJFVC）が本格始動しました。７月１日、JICA インドネシア・ASEAN 事務所の安井前所長・竹田新所長がカオ・キムホン ASEAN 事務総長に離着任挨拶をした機会を捉えて、ASEAN 本部・事務局でプロジェクトオフィス開所式が行われました。

そして７月９日、ミン ASEAN 事務局食料・農業・林業課長、ASEAN 加盟各国の農業分野の実務者、JICA 本部のプロジェクト関係者など約 30 名の参加を得て、初めての合同調整委員会（JCC）がハイブリッド形式で開催され、私も出席しました。この JCC は、プロジェクト実施の戦略的方向性や政策ガイダンスを関係者間で共有するために実施されるもので、年１回の開催を予定しています。

私の冒頭挨拶では、AJFVC が日 ASEAN みどり協力プランに基づく重要な柱として位置づけられていること、AJFVC のもとで農業生産工程管理（GAP）と官民パートナーシップ（PPP）の推進によるフードバリューチェーン強化に取り組む考えであることを確認しました。

AJFVC は、先月 ASEAN 各国の GAP 専門家を招いて ASEAN GAP の普及・広報のための第１回国際セミナーをジャカルタで開催しています。今後もこのプロジェクトを応援していきたいと思います。

ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）と ASEAN 事務総長との対話
（2024 年 7 月 17 日、ASEAN 事務局提供）

●ASEAN 日本人会商工会議所連合会（FJCCIA）

7 月 16 日、ジャカルタの ASEAN 本部・事務局で、ASEAN 日本人商工会議所連合会（FJCCIA）と ASEAN 事務総長の第 16 回対話が開催されました。FJCCIA は、ASEAN 域内の日本人商工会議所会員により構成されている連合組織です。日 ASEAN ビジネス関係の強化に向けて、経済産業省や JETRO の参加も得て、年次対話を開催することが伝統になっており、私も昨年に続き参加しました。

FJCCIA 側からは、今回の対話に向けてとりまとめた「ASEAN に進出する日系経済界からの要望書（2024 年）」を説明しました。ASEAN のビジネス環境の課題や、ASEAN の競争力と魅力を最大化するための地域統合の重要性を指摘しつつ、具体的な要望事項を６本の柱の下で整理したものです。

カオ・キムホン事務総長からは、さらなる投資、デジタル分野での協力の促進、カーボンニュートラルの達成、サプライチェーンの強化等に向けて、日 ASEAN 企業間の協力を一層強化するよう期待が表明されました。

私も出席して挨拶し、日 ASEAN 双方にとって GX・DX の推進が喫緊の課題であり、そのためには日 ASEAN の民間部門の協力が鍵であることを強調して、FJCCIA と日本企業の日 ASEAN ビジネス拡大に向けての取組を最大限支援することをお約束しました。

ナラリャ ASEAN 事務次長（官房担当）との意見交換（2024 年 7 月 18 日）

●ASEAN 事務局との意見交換

日 ASEAN 間の要人往来や各種会合・行事に際して、準備やフォローアップを ASEAN 事務局と一緒に行うことも、ASEAN 代表部の重要な役割です。

６月末、ナラリャ ASEAN 事務次長（官房担当）が着任後初めて訪日し、奈良で大阪・関西万博国際参加者準備会合に出席するとともに、第１回 ASEAN・G7 ネクストリーダーズフォーラムの開会式で挨拶し、小泉法務大臣とも会談しました。これを受けて、７月 18 日にナラリャ事務次長を往訪し、来年４月～10 月の大阪・関西万博の ASEAN パビリオン開館・運営や８月の ASEAN デー行事に向けての準備、日 ASEAN 法務・司法協力の推進について、今後の段取りを話し合いました。

７月 19 日には、シン ASEAN 事務次長（経済共同体担当）はじめ関係局課長を公邸での朝食会に招いて、ASEAN 代表部の新着館員とともに、今後の協力の優先課題について意見交換を行いました。ASEAN 高級経済実務者会合（SEOM）直後のタイミングだったこともあり、今後の一連の閣僚級会合や首脳会議に向けて、エネルギー、デジタル、交通連携、観光、海運、航空、食料、科学技術イノベーション、知的財産など幅広い分野での日 ASEAN 協力の方向性について認識を共有する良い機会となりました。

東アジア首脳会議（EAS）参加国外相会議（2024 年 7 月 27 日）

●ASEAN 関連外相会議

７月下旬には、ASEAN 関連外相会議がラオスのビエンチャンで開催され、日本からは上川外務大臣が出席しました。私は大臣来訪の前日に現地入りして、関係者との事前協議や会場での段取りの確認を行いました。既に ASEAN のみの会議は始まっており、立派な会議場で整斉と運営が進行しているのを見て、議長国ラオスの経験と力量を感じました。

ASEAN 関連外相会議は、ASEAN をはじめ域内諸国の外相が一堂に会しての、華やかな外交の舞台です。ASEAN 主導の重層的地域的枠組みの下で、ASEAN のみの会議に加え、ASEAN＋１、ASEAN＋３（日中韓）、東アジア首脳会議（EAS）、ASEAN 地域フォーラム（ARF）など様々なマルチ会合が開催され、その機会を捉えて各種の二国間会談も行われます。ASEAN 以外の国は、参加するマルチ会合が異なるので、到着・出発するタイミングは様々ですが、最終日前日のガラ・ディナーには全ての国が無理なく参加できるよう、日程が工夫されています。

上川外務大臣は、7 月 26 日に日 ASEAN 外相会議と日メコン外相会議、27 日に ASEAN＋３外相会議、EAS 参加国外相会議、ARF 閣僚会合に出席し、ラオス、中国、韓国、インドネシア、ノルウェー、英国、シンガポール、東ティモールとの二国間会談も行いました。

ASEAN 関連外相会議の代表団ラウンジにて（2024 年 7 月 26 日）

●外相会議の成果と首脳会議に向けての準備

今回の外相会議では、昨年の 50 周年特別首脳会議を踏まえ、心と心のつながるパートナーである日本と ASEAN が、地域、さらには世界の平和、安定及び繁栄を共創することの重要性を強調し、信頼関係を一層深めることができました。

具体的な成果として、全ての ASEAN 諸国から、日本は信頼するパートナーであり、日本の支援や取組を歓迎するとして、DX や GX、地域金融協力や食料安全保障の強化などへの期待の声が寄せられました。地域情勢では、東シナ海・南シナ海、北朝鮮、ミャンマー、ロシアによるウクライナ侵略、中東など喫緊の課題についての日本の立場を発信し、ALPS 処理水の海洋放出についても日本の取組を丁寧に説明しました。

本年 10 月には、同じビエンチャンで ASEAN 関連首脳会議が開催される予定です。今回の経験と成果を踏まえ、さらなる進展が得られるよう着実に準備を進める決意です。今後、皆様とも様々な形で協力させていただければ幸いです。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦